



2026.2.24

瀬戸ひなご幼稚園園長 神戸洋美

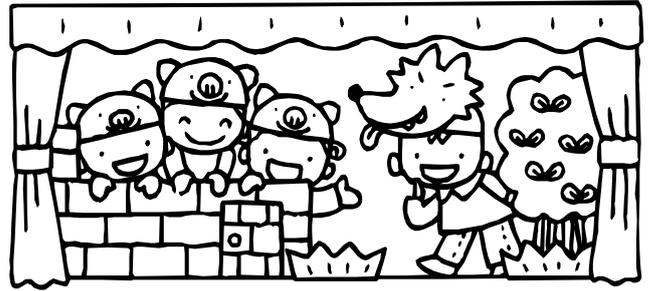
### 遊戯会を終えて・・・

お礼が遅くなって申し訳ありませんが、遊戯会にはご家族の皆様でお出かけくださいましてありがとうございました。園から観覧席や駐車場について色々とお願ひしましたが、保護者の皆様が快くご協力いただいたお陰様で、無事に終えることが出来ました。心より感謝申し上げます。

子どもたちは舞台の上で、本番の前日まで一生懸命練習した成果をしっかりと発揮してくれました。中には照れてしまって思うようにできなかったり、余裕でお父さんやお母さんに手を振ったり、ついお友達の方まで覚えていておせっかいしたりと、一人ひとりの個性が出ていて、その姿は本当にほほえましいものでした。ご自分のお子さんの演技を絶対逃すまいと、スマホやビデオをかまえてみえた保護者の皆様の気迫もさることながら、その姿に拍手をしっかりとくださって会場が一つの家族のようでした。とっても温かな遊戯会になったことに改めてお礼申し上げます。

特に年長組は最後の遊戯会でした。思わず私までウルウルしてしまいましたが、保護者の皆様はなおのことだったと思います。また今年年長組は、劇のセリフはマイクなしで行いました。後ろまでセリフが聞こえるかと心配しましたが、どのお子さんも自信を持ってセリフを言い、その役になりきっていましたね。年中組は劇に初めての挑戦でしたが、流れを覚えてお友達とお互いに協力して、物語が進んでいきました。年少組とちゅうりっぷ組は、かわいい衣装を着けて元気いっぱい舞台の上で飛び回っていましたね。自ら喜んで動いているということが、その表情から伺うことが出来ました。

楽器演奏は担任自らの編曲で、各楽器のパートを考えます。どこでどの楽器にするか、どんなリズムにするかで曲の出来栄も違ってきます。歌も毎日の練習で歌詞の意味を理解し心に響く発表となりました。改めて子どもたちの頑張りに拍手を送りたいと思います。本当にありがとうございました。



### 日本選手の活躍に心躍る毎日！

23日に閉会式を迎えたミラノ・コルティナ冬季オリンピック。日本選手の素晴らしい活躍に心を躍らせ、大きな拍手を送られた毎日だったのではないのでしょうか。スノーボードは日本の「シン・お家芸」と言われるくらいメダルラッシュが続きました。スピードスケートやフィギアスケートでもメダルを獲得し、次から次へとメダルのニュースが続きました。今大会での日本勢の獲得メダル数は24個に到達し、22年北京五輪の18個を上回り、冬季五輪最多メダル記録を更新しました。

もちろん表彰台やメダルを目指して、選手の皆さんは頑張ってきましたが、目標とした色のメダルに届かなかった選手も多くいました。本番に練習通り100%の力を出し切ることがいかに難しいか、私たちも選手と同じ思いで胸を熱くした日々でした。がメダルに手が届かなかったとしても、そこには厳しい練習に耐えた選手の努力がありますし、それを支えた家族やコーチ・スタッフの方々、地元の皆さんの応援があってこそです。すべての選手が支えてくださった方々に感謝の思いを伝えていました。



私がこの大会で特に心に残っているのが、フィギアスケートの「りくりゅうペア」です。前日のショートで失敗し泣き明かした翌日に、最高点を出して金メダルに輝きました。そしてもう一つは、アルペンスキーのメキシコ代表のサラ・シュレパー（46）とラセ・ガシオラ（18）が親子で出場したこと。冬季五輪同時出場は史上初めてだそうです。お母さんは7度目の大舞台、息子は母の五輪デビュー時と同じ年齢で初出場し、歴史に名を刻みました。正に「親の背中を見て子は育つ」です。

全ての国の選手の皆さんに「素晴らしい感動のドラマをありがとう」と心からの拍手を送りたいですね。